

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家大曲		
所在地	北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2-2 (電話) 011-377-8373		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】 (20年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 12月 20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤21人, 非常勤4人, 常勤換算19.95人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨構造S構造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~27,000円	その他の経費(月額)	光熱費 27,000円 暖房費(11月~4月) 9,000円
敷金	有()円・ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(1月 19日現在)

利用者人数	27名	男性 10名	女性 17名
要介護1	8名	要介護2	9名
要介護3	3名	要介護4	4名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 82.4歳	最低 63歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	輪厚三愛病院、エスポワール北広島、清田整形外科病院、いなむら皮膚科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは親族が経営する病院の受け皿として開設し、認知症の人達が安心して楽しく、低料金で暮らせるホーム造りを目指し、道内に4箇所開設して社会貢献していくことをモットーとしている。運営法人の責任者が週1回はホームを訪れ、管理者や職員との協働体制を確立し、より良い運営やケアの向上に取り組みされている。また、協力医療機関が法人母体の病院であり、24時間対応して利用者や家族の安心となっている。職員は毎日、利用者それぞれの介護の視点を捉えて利用者の自立支援を支えている。職員間の人間関係も良好で、離職や異動がほとんど無く、利用者との馴染みの関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題として指摘された、「地域密着型サービスとしての理念の見直し」「重度化や終末期に対する指針の文書化」は、いずれも、運営法人全体で取組まれ改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価項目を理解し、自分のケアの振り返りを行なって、職員それぞれの自己評価を作成している。毎月の会議で、その自己評価の1項目づつを話し合い、検討して改善に取り組んでいる。評価項目の点検は内部研修の一環として捉え、日常的に職員全員で取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、主旨や方針を明確にして、19年5月から2ヵ月毎に開催している。ホームの近況報告や地域防災、レクリエーション見学、外部評価やグループホームを取り巻く様々な課題をテーマとして、活発な意見交換がなされ、サービスに反映されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族面会時や電話報告時に寄せられた意見や苦情、要望などは、「家族との対応記録」として、書面に記し、迅速に対応を検討し、運営に反映させている。また、ホーム内に意見箱を設置し、運営法人に電話による24時間対応の相談窓口を設けている。重要事項説明書には第三者の苦情相談窓口も明記している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ゴロッケー大会やパークゴルフ大会、焼肉パーティなどの町内会行事に参加し、ホームの「里の家」祭りには、地域の方々を招待して年々交流を深めている。また、保育園との三世代交流や地域ボランティアとの様々な交流が活発になってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの取り組みは、開設当初より運営方針に掲げ、契約書のホームの倫理綱領や利用者の権利に示し、実践しているが、20年2月に、理念の見直しをして、地域密着型サービスの明確な理念を加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は、毎朝、職員で読み合わせをしている。申し送りやユニット会議では日常的に話し合いや確認をして、方針や目的意識を明確にし実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴロッケー大会やパークゴルフ大会、焼肉パーティ等の町内会行事に参加し、ホームの「里の家」祭りには、地域の方々を招待して交流を年々深めている。また、保育園との三世代交流や地域ボランティアとの様々な交流が活発になってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価項目を振り返り、職員それぞれの自己評価を作成している。毎月の会議で、その自己評価項目1項目ずつを話し合い、検討をして改善に取り組んでいる。評価項目の点検は、内部研修の一環として捉え、日常的に職員全員で取り組んでいる。		

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、主旨や方針を明確にして、19年5月から2ヵ月毎に開催している。ホームの近況報告や地域防災、レクリエーション見学、外部評価やグループホームを取り巻く様々な課題をテーマとして、活発な意見交換がなされ、サービスに反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは、主に運営法人職員が担当窓口となり、管理者とともに、市とホームの相互の課題について、相談や協議をしながら、課題解決に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活や身体状況については、主に利用者の担当職員から家族面会時や電話で詳細に報告している。また、「里の家便り」を毎月発行し、ユニット毎の利用者の様子を写真満載にして、郵送している。金銭出納明細や領収書も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や電話報告時に寄せられた意見や苦情、要望などは、「家族との対応記録」として、書面に残し、迅速に対応を検討し、運営に反映させている。また、ホーム内に意見箱を設置し、運営法人に電話による24時間対応の相談窓口を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動はほとんど無く、運営者は、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。また、ユニット間の交流が盛んで、ホーム内の職員と利用者は、普段から馴染みの関係を築き、職員が代わる場合の利用者への影響を最小限にするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月1回、運営法人内4グループホームのユニットから1名ずつ集まり、1年間継続して、段階に応じたテーマで研修を受講できるようにしている。外部研修も、職員の習熟度や経験に応じたテーマを、業務の一環として受講できるようにし、研修内容を会議で報告して職員全員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のグループホーム連絡会やグループホーム協議会、北広ネットサービスに参加し、意見交換をしている。当初は、管理者が中心に交流していたが、昨年は、職員の交流も活発になり、ホーム見学やケース検討会、相互研修会などで意見交換し交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の9割が病院からの入居のため、ホーム見学は家族のみで行ない、管理者やユニットリーダーが病院で利用者に面会し、馴染みの関係を築くよう配慮している。また、利用者や家族と相談して、居室環境を、いままでの暮らしぶりに少しでも近づけるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相談の時点から、利用者と家族にはグループホームは自立支援の場であることを説明し、納得されて入居していただいている。入居後も利用者の出来ること、出来ないことの見極めを十分把握して、職員と利用者が互いに協働しながら、生活できるよう声かけしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報収集は、最近、センター方式の用紙に切り替え、ホームが必要としている用紙を選別し、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、現在の利用者の状況を様々な職員の視点から収集し、用紙に蓄積して職員で共有し周知を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は1名～3名の担当利用者が決まっており、利用者や家族の希望や要望に到達できるよう、職員全員の視点から様々なアイデアを出し合い意見交換を重ねて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎日の介護で、利用者にとって今日必要な支援は何かを見極め、一人ひとりの利用者に「本日のケア目標」を定めて介護している。その日々の目標の評価をその日の介護記録に記載し、介護計画の実践と結果の記載、また、一日の流れがわかるような記載を心がけ、見直しの評価に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、通院介助や理美容院への送迎、お墓参りや昔暮らした家に行くなどの支援を行なっている。整骨院への送迎も行ない、費用はホーム負担で理学療法や機能訓練を受け、身体能力の維持を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による2週間毎の往診で、健康チェックが行なわれ、利用者の健康管理の支援をしている。利用者や家族の希望により、入居前のかかりつけ医や他科受診の通院支援も行なっており、家族へ受診内容の報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化（ターミナル）に関する指針」を文書にして、入居時に利用者や家族に説明をし、同意の上で入居に至っている。また、重度化した場合は、関係者で話し合い、方針を共有して支援につなげている。ターミナルケアの支援についても、より具体的な同意書を作成して、家族の理解と協力をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーが異なるので、利用者との係わり方を職員間で話し合い、プライバシーを損ねない対応が出来るよう、職員間で統一している。特に、排泄誘導や記録の個人情報には細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは共同生活の場でもあるので、食事や入浴については、ホームでの生活の流れに沿っていただくこともあるが、利用者の余暇時間は、利用者のペースで希望を尊重した過ごし方ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを把握し献立に取り入れている。食事の一連の作業では、利用者の力を随所に活かしながら、参加していただき、食事が楽しみなものになるよう働きかけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットにより、利用者の希望で月・水・金の入浴日を決めたり、毎日が入浴日のユニットもある。時間は11時～16時までの間で、自由に入浴していただけるよう支援している。また、夕方に家族が入浴介助をしたり、銭湯に行ったりなど、工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力を活かして、野菜づくり、漬物、魚捌き、郵便物、新聞、家事の種々などがあり、順番制にして、自分の役割が持てるよう支援している。また、生け花や茶道、書道などの趣味も活かせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、散歩や買物、家庭菜園やパークゴルフなどの支援をしている。また、月に1～2回はマイクロバスやリフト車を利用して、ドライブや見学など普段行けない場所へ外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に面しているため、利用者の安全と防犯を優先し、玄関とユニット入口に施錠をしている。利用者によっては、自分で開錠してユニット間を自由に移動したり、職員は事前対応を心がけている。		

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署指導と防災コンサルタント支援による自主訓練で年2回実施している。様々な状況を想定して訓練しており、2月には、夜間想定での実施を予定しているが、地域の協力体制が十分整備されておらず、地域住民との連携が得られていない。	○	運営推進会議で、災害時における地域住民の協力についての話し合いを重ね、具体的な支援体制の整備を段階的に準備され、利用者の状況に配慮しながら、実施に向けて取り組まれることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、毎食ごとの食事内容の映像と献立表を運営法人に送り、法人内全ユニットで3ヵ月毎に「食材コンテスト」を実施して、利用者本位の調理内容を競い合っている。食事や水分の摂取量を把握し、必要量を摂れるよう工夫や自力摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、それぞれリビングや台所の広さや構造が異なり、ユニットの特徴を活かしながら、廊下の端に畳みスペースを配置したり、数人で外を眺める空間を作ったりしている。管理者室は開放され、ユニット間を繋ぐ利用者の生活空間の一部になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、ベッドや2人掛けソファ、テーブルをゆったり配置できる広さがあり、利用者同士や家族とお茶をしながら、寛げる部屋になっている。ほかにも、馴染みのダンスや鏡台、TV、趣味や思い出の物を置き、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。